

とやま



県公連会報

第353号

令和7年7月24日

富山県公民館連合会

富山市舟橋北町7-1

富山県教育文化会館内

TEL・FAX (076) 444-5777

E-mail tomico7@iaa.itkeeper.ne.jp



縄文土器作り教室

地元「桜町遺跡」から受け継ぐ知恵と文化。縄文土器作りで体感！縄文の技を子どもたちの手につなぐ。



ホタル観察会

ホタルってどんなくらし？観察に行く前にみんなでホタル博士になろう！学んで感じる光る命。



縄ない教室

手と手でつなぐ昔の知恵。

地元のおじいちゃん先生に教わって、縄ない名人。



三世代パークゴルフ大会

打って笑って応援して。三世代でナイスショット！にぎやかパークゴルフ日和。

表紙写真

地域の資源を活かす公民館活動

小矢部市立東部公民館

東部公民館は、石動東部と子撫の2地区からなり、地区内には小矢部川と子撫川が流れ、桜町遺跡やアウトレットモールがあります。

桜町JOMONパークで行う「縄文土器作り教室」では、用途を決め、形や模様を工夫して作ります。

「ホタル観察会」では、乱舞するホタルの姿を観たり、環境保全の大切さを学んだりします。「縄ない教室」では、地域の方を講師に招いています。

地域の自然や施設、人材等の資源を活かした事業を、今後も積極的に進めていきたいと思っています。

〈本号の主な内容〉

2面 ● 第19回定期評議員会

- ・ 会長挨拶
- ・ 本年度活動目標

3面 ● 初任者研修会

- ・ 講演概要
- ・ 委嘱公民館の発表

4面 ● わが町の公民館活動

- ・ 入善町棚山公民館
- ・ 氷見市宇波公民館

5面 ● わが町の公民館活動

- ・ 富山市立水橋東部公民館
- ・ 滑川市北加積地区公民館

6面 ● 表彰館紹介

- ・ 富山市立速星公民館

第19回定期評議員会開催



中西 彰会長

第19回定期評議員会は、5月14日(水)に県教育文化会館において開催された。議事に先立って中西会長から挨拶があり、「公民館活動の原点を見直すため、全公連発行の『よくわかる公民館のしごと』や『月刊公民館』等を活用してほしい」、「能登半島地震の体験を風化させない」、「コロナ禍の中で身に付けてきたデジタル技術を使った新たな公民館活動を開発してほしい」の3点について話があった。

続いて来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財課課長河原千里氏から、「近年、人間関係の希薄化や地域のつながりの不足、情報格差等の課題が顕在化する中、公民館活動に携わる皆様には、地域のコーディネーターとしての役割が、これまで以上に求められています。県では『第3期県教育振興基本計画』に基づき、“ウェルビーイング”の向上と、『誰一人取り残さない』持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進しています。こうした中、県公民館連合会のご協力を得て、『公民館 de つながるモデル事業』を展開しており、これまでの地域に根ざした多様な活動に加え、ICTを活用した新たな挑戦にも積極的に取り組んでいただいています。その着実な進展は、公民館連合会の皆様のご尽力の賜物です。今年度は9市町11の公民館がモデル公民館として参加いただいております、この取組みが、地域の絆づくりや人づくりを進めるきっかけとなり、地域コミュニティの活性化につながっていくことを願っております。」とのご挨拶があった。



河原千里 課長

《令和7年度県公民館連合会役員》

顧問	鹿熊 久三(富山市)
会長	中西 彰(富山市)
副会長	中村 茂信(富山市) 高井 清高(高岡市) 谷口 政芳(黒部市) 吉田外茂治(小矢部市) 荒井外志明(高岡市)
理事	堀江 庄一(富山市) 森田 優弘(富山市) 伊藤 和雄(富山市) 蒲田 幸雄(高岡市) 佐伯 靖彦(射水市) 山浦 尚(魚津市) 小谷 超(氷見市) 水井 勤(滑川市) 山本 誠(砺波市) 前田 悟志(南砺市) 高島 正美(舟橋村) 菅田 宣雄(朝日町) 和田 彩未(黒部市) 松田 智幸(滑川市) 水口 美枝(南砺市)
監事	本田 雅俊(魚津市) 山本 修一(南砺市) 荻野 直樹(氷見市)
事務局	本田 正則 木本 聡子

《令和7年度活動方針》

公民館は、地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、人々の教養と生活文化の向上や福祉の充実、健康の増進、地域の安全・安心の向上等、地域社会の中で大きな役割を果たしている。

しかし、近年の**少子高齢化の進行**や家族形態の変容などによる地域社会の絆の希薄化、**制度面での変革、自然災害の多発**、新型コロナウイルス感染予防をはじめ、多くの課題が顕在化し、公民館の管理・運営の柔軟な対応が求められている。

このような現状を踏まえ、我々は公民館が地域社会のかけがえのない拠り所となるよう不断に自らの在り方を見直し、今日的な役割や課題、新たな要請やニーズに対応すべく、自主的・自立的、効果的な運営に一層の工夫努力を重ねていかねばならない。

本会は、このような状況を踏まえ、地域コミュニティの向上のために、関係諸団体等との連携及び公民館相互の連携を一層密にし、地域の特性を生かした公民館活動が活発に展開されるよう努める。

《令和7年度活動目標》

- ・公民館の発信力を高めるとともに、地域の多様な関係団体等との連携・協働、地域の様々な人材の発掘、連携・活用等を促進する。
- ・地域の特性を生かした事業やまちづくり、**防災・減災、安全・安心の地域づくり**、人々の自由で主体的・創造的な学習活動の充実等を通して、地域の絆を築く取組を推進する。
- ・住民が地域に誇りと愛着をもち、青少年が地域に支えられて心身の成長を遂げられるよう、異世代交流や家族ぐるみ参加により、ふるさとの自然や歴史・文化等を、五感を通して体験的に学ぶふるさと教育活動の機会を充実する。
- ・地域の活力と住民の絆の基盤が、家庭、子供たちの成長にあることに鑑み、地域で子供たちを見守り育てる環境づくりに努める。
- ・地域のニーズを掘り起こし、多様化する要請に対応できるよう公民館職員の職務に応じ専門性を高める研修を充実して資質向上に努める。
- ・**公民館施設の耐震化、バリアフリー化の推進**とともに、職員の常勤配置等を関係機関に働きかける。
- ・**ウイズコロナでの活動の工夫やポストコロナでの学びの在り方を学びあい、これからの公民館活動に活かしていく。**
- ・大会・研修会や公民館での学びを発信したり、さらに活動の輪を広げたりするなど、学びを生かす活動を推進する。
- ・一人一人が生き生きと自分らしく暮らせるウェルビーイングの向上を目指す。

公民館運営の在り方、地域課題・住民ニーズの把握と事業企画を考える！

令和7年度富山県公民館初任者研修会開催



激励の言葉を述べる河原課長

6月12日(木)、公民館初任者研修会は、79名が参加して県教育文化会館で開催された。

開会に当たり、来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財課課長河原千里氏から、「少子高齢化や度重なる自然災害等、社会の変化を背景に、公民館は『つどう』『まなぶ』『むすぶ』の機能を生かし、地域防災や子育て支援、多世代交流など、暮らしに根ざした取組を進める大切な場となっています。県では、『公民館 de つながるモデル事業』等を通じて、対面とデジタルを融合させた新たな活動の展開を支援しており、貴連合会でも、地域に即した実践を力強く進めておられます。本日の研修が、初めて公民館職員となられた皆様にとって、気付きや学びにつながる機会となれば幸いです。今後とも、公民館職員としての専門性を深めながら、いきいきと魅力ある地域コミュニティづくりを進めていただきますようお願い申し上げます。」との激励の言葉があった。

引き続き研修に入り、全公連・県公連会長 中西彰による「新たな地域社会の担い手」の講演と、令和6年度研究委嘱館の発表を通して、研修を深めた。

【中西会長の講演より】

○講演要旨

- 生涯学習と社会教育
 - 生涯学習：教育基本法第3条
 - 社会教育：社会教育法第2条
- 公民館のあゆみ
 - 昭和21年～現在
 - 東陸大会開催10回、全国大会開催3回
- 公民館の役割
 - 「ふれあい」「学びあい」「結びあい」
 - ※ つどう、まなぶ、むすぶ
- 公民館の種類
 - 公立公民館：市町村が設置
 - 自治公民館：何人も設置することができる
- 公民館の事業
 - ①地域住民の暮らしに関連した事業
 - ②住民の教養を高める事業
 - ③地域の連携を図る事業
- 公民館の職員として
 - 安全の確保
 - 窓口での丁寧な対応
 - 「公民館の窓口から地域が見える 事務所の窓口から公民館の様子がわかる」
- 今日的な課題
 - ①災害対応
 - ②デジタル技術の活用



講演する中西会長

【研究委嘱館の発表より】

I「公民館まつりを通じた地域活性化と交流の創出」

入善町青木公民館 館長 上野 郁行 氏

1 主題について

趣味サークルの活性化・地域住民の交流の場・世代間交流の促進・学び場の充実などの大切な役割を果たす公民館主催の「青木まつり」。また、伝統芸能の発信・継承を担う「演舞」を地域住民に、広く知ってもらう必要がある。



発表する上野館長

2 実践事例

青木まつりの発表には、親子餅つきや屋台、炊き出し訓練、ビンゴゲームそして作品展示などの他に、子どもたちが披露する踊りや獅子舞・寄せ太鼓などがあり、伝統文化の継承をテーマに交渉を重ね、新たに「雅楽演奏」が加わった。

また、発信という点で、青木地区は早期の結ネットを導入し、地域内の90%以上の世帯の登録があり、ウェブサイトで公民館活動の紹介や公民館の空き状況の確認ができ、各地区長を始め公民館事業の情報発信に利用している。若い人へもスムーズな周知ができると期待する。

3 成果と課題

デジタルの活用を進めながら、青木まつりを通じて学びあう場を創出し、地域のニーズに応じた公民館活動を展開し、住民主体の地域づくりを支援していきたい。

II「地域の防災における公民館の役割の模索」

富山市立新庄北公民館 館長 宇野津 晶 氏

1 主題について

新庄北地区は、自治振興会・各種団体・町内会により構成された新庄北連合自主防災会が地区防災を担っている。

公民館としてどのような役割を担っていけるかを考え、研究委員会を立ち上げた。



発表する宇野津館長

2 実践事例

サマーフェスタ・オータム祭などの大きなイベント時に、個人世帯の防災の準備として「災害時に3日間を生きる防災セット」の一人用のリュックや家具防止器具突っ張り棒などの展示。10問を3択形式で答える防災クイズコーナーを設置し、景品を配った（防災会実施）。消防による煙中体験や自衛隊車両展示なども行った。

小学校で行ったイベントの他に、地域でどんな訓練をしたかの活動一覧を表にして、公民館などで周知をした。

また、公民館と小学校が一体化しているため公民館が避難場所になり、災害時に開放する入口や使用する部屋と用途を明確にした。

3 成果と課題

地域の防災意識・知識の向上に貢献できた。

今年度も、機会があれば防災会に頼んで防災ブースの出展を依頼し、協力していきたい。

※富山県公民館連合会のホームページで、講演と実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



また来たくなる 心つながる 公民館を目指して

入善町 梶山公民館

梶山公民館は、入善町の東部、旧梶山小学校の跡地に、平成15年4月に地域の交流の場として建てられた木造平屋建ての公民館です。現在、公民館では卓球、詩吟、茶道、社交ダンス、民謡、カローリングなどのサークル活動や女性学級などが年間を通じて幅広く事業を展開しています。

当地区では、毎年夏に「敬老会・ふれあい祭り」を開催しており、ご高齢の方々をはじめ、園児や児童、地域の多くの皆さんが参加し、敬老を祝い、盛況を博しています。また、11月初旬には、子どもたちや地域住民、各サークルの皆さんの発表と交流の場として、「公民館まつり」が開



「敬老会・ふれあい祭り」園児の踊り

催されます。

その他、子ども向けの催しとして、8月には小学校のプールで「魚のつかみ取り大会」が賑やかに行われます。12月には三世代交流の「もちつき大会」が開かれ、子どもたちは重い杵を使った「もちつき」を体験します。さらに、2月には「Aみな穂青壮年部のご指導のもと、「親子そば打ち体験会」を実施しています。

地域のふれあい交流の場としては、6月に「花と緑の銀行」による山野草展示会が開催されるほか、地元や近隣県への日帰りバス研修旅行「ふるさと再発見」も実施しています。10月には自分の足でふるさとを巡る「探訪ウォーク」、2月には恒例の「カローリング大会」が開催され、熱戦が繰り広げられます。

公民館は、地域の皆さんの利用を通じて、ふれあいや学びの拠点として育まれています。これからも、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に楽しく利用・活用できる場として、地域の活性化と発展につなげていきたいと思っています。

わが町の公民館活動

氷見市 宇波公民館

地域のふれあいの場づくりを 目指して

宇波地区は、氷見市の北東部、富山湾に面し、宇波、脇方、小境、大境、白川、下戸津宮、上戸津宮、大窪の8集落から構成される世帯数480戸、人口1,127人の地区です。

海越しの立山連峰が望める風光明媚な地域で、地域内や付近には国指定史跡「大境洞窟住居跡」や同「石動山」があり、この地域に古くから人々が暮らしていたことが伺えます。

これを活かして、公民館主催の「ふるさと石動山ゆかりの遺跡遺物めぐり」を行っており、参加者から好評を得ています。

海が近く比較的温暖な地域で、北陸では珍しく



宇波ねまれ市

ミカンが栽培されており、日本最北端のミカン産地といわれたこともありました。

令和5年に設立された宇波地域づくり協議会では、「ミカンロード」や「ミカンの里づくり」など「灘浦ミカン」を特産品とした地域づくりを進めています。

春と秋には「ねまれ市」と名付けたふれあい市場を開催し、地元で採れた野菜やミカン、地元定置網で獲れた鮮魚、手作りの加工品などを販売して賑わいづくりに努めています。

令和6年元旦の能登半島地震では、当地区にも大きな被害があり、地域に元気を取り戻すために「ねまれ市」の開催数をもっと増やしていきたいと考えています。

当地区では、いつの頃からか文化行事が盛んで、公民館ができた昭和期から文化祭が続けられており、今も文化の日に「ふれあい文化祭・公民館まつり」を開催しています。

少子高齢化・人口減の厳しい中ですが、公民館を中心に地域住民の絆を大切に、住民が集い、住民同士がつながりを深め、安全で安心して住める自然豊かな地域を目指しています。

公民館活動で これからも三世代交流を

富山市立水橋東部公民館

水橋東部公民館は、その名のとおり富山市東部に位置し、美しい立山連邦を望む静かな田園地帯が広がる、とても暮らしやすい地域にある公民館です。

当館では、サークルが日常的に活発に活動しており、健康づくりの体操サークルや囲碁、絵手紙、ちぎり絵、パステル画、生花、民舞、社交ダンスなどの趣味のサークルで住民同士の交流の場となっています。なかでもシルリハ体操サークルは会員数も多く、いつまでも元気で暮らすための



シルリハ体操サークル

体操と笑いヨガで心と体の健康を促進しています。サークルでは、いつも皆さん笑顔で元気いっぱいです。趣味のサークルの方々も熱心に活動されており、当館での文化祭では、たくさんの力作を出展していただき、毎回会場が華やかになります。

地区の各種団体による春と秋に開催の「歩こう会」や「冬のスポーツフェスティバル」には、子どもからお年寄りまで多くの参加があります。「冬のスポーツフェスティバル」では、寒さに負けず軽スポーツで体を動かした後にもちつき大会があります。子どもたちがもちつき体験をし、つくたての餅をみんなでいただき、大いに楽しんでいただける行事です。

水橋地区では現在、小中学校の統合が進められており、令和8年3月には地元の水橋東部小学校が閉校となり、令和8年4月から児童は近隣地区に新設される水橋学園へ通うこととなります。小学校は閉校となりますが、これからも児童や地域の皆さんが世代を超えて気軽に参加・交流できる活動を進めていきたいと考えています。

わが町の公民館活動

滑川市北加積地区公民館

次世代につなぐ「食農育」を育む

北加積地区は、市内の平野部に位置し、あいの風とやま鉄道「滑川駅」から南東に広がる地域です。2025年1月1日現在、1,564世帯・3,941名が暮らしており、穏やかな自然環境の中で地域の暮らしが営まれています。近年、滑川駅周辺では新興住宅地の開発が進み、若い世代の流入などにより人口が増加しています。一方、地区内には美しい田園風景が広がり、豊かな水資源に支えられた農業地帯としての側面もあります。このように、自然と都市機能が調和する地域です。

北加積地区公民館では、地域の小学校やこども園と連携し、「食農教育」に力を入れた共催事業を展開しています。地区内の小学校は市内で唯一、学校田を所有しており、児童たちは種まきから田植え、稲刈り、餅つき、稲穂を使った正月用リースづくりまで、一年を通して農業体験に取り組んでいます。これらの活動は、公民館が中心となって支援しています。

具体的な内容としては、田植えには「ころがし」、稲刈りには「鎌」、餅つきには昔ながらの

「杵（きね）と臼（うす）」を使い、現代ではなかなかできない農作業や行事を体験できます。

近年は全国的に農業離れや後継者不足といった課題が深刻化しており、「食農教育」を通じて、子どもたちに農業の大切さや楽しさを伝えるとともに、先人の労苦や収穫の喜び、「食」への感謝の心を育んでもらうことを目的としています。また、農業体験を通して地域住民同士の交流や親睦を深める場ともなっており、地域全体で子どもたちの成長を見守る取り組みが続けられています。



田植え ころがし

表彰館紹介

富山市立速星公民館 令和5年度優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞

幅広い世代に愛される公民館をめざして

富山市西部に位置する速星地区は、旧婦中町の中心地として発展してきた地域です。

働き盛りの世代を中心に多世代が暮らしており、商業施設や福祉施設も立地するなど日常生活の利便性が高いのが特徴です。

本地域には多くの子どもたちが暮らしており、様々な行事に幅広く参加・協力してくれています。

園児は敬老会などで歌や踊りを披露し、また、長寿会とも温かな交流を深めています。

小学生から高校生は、JR 高山本線速星駅の清掃活動などのボランティアに参加し、地域の美化に貢献してくれています。また、稚鮎の放流事業では、中学生が園児の見守り役として協力してくれるほか、文化祭や鍋まつりといった大きなイベントでは高校生がスタッフとして活躍してくれています。

地域の子どもたちが年齢を問わず様々な形で関わり合い、地域社会の一員として貢献してくれる姿はとても頼もしく、今後の地域づくりへの希望を感じさせてくれます。

一方で、近年は地域のつながりの希薄化が課題となっており、その解消に向け、子育て世代を対象とした「子育てサロン」や、地域の助け合いを促す「フードドライブ」などを展開しています。

地域外出身の保護者も多く参加する子育てサロンでは、保育園や小学校などの地元の情報を参加者同士やスタッフと気軽に共有できることが好評です。4年目を迎え、初期に参加してくれていたお子さんの弟妹が生まれ、また新たに通ってくれる姿を見ると喜びと励みになります。

フードドライブをきっかけにSDGsを学ぶ機会を設け、食生活改善推進員の皆さんと協力して、「サルベージ・パーティ」を開催しました。家庭の余り食材を持ち寄り、アイデアを出し合いながら料理をする中で、食品ロスの削減について楽しく学ぶことができました。

これらの取り組みを通じて「初めて公民館を訪れました」と話してくださる方々と出会う機会も増え、公民館が地域の入口としての役割を果たしつつあることを実感しています。

これからも、地域の人々に愛され、若い世代も気軽に集える公民館であり続けたいと思います。



長寿会のみなさんと園児たちの交流



稚鮎の放流・中学生のお兄さんお姉さんたち



子育てサロン・夏休みの小中学生も参加してくれました



フードドライブ受付の様子



サルベージ・パーティの調理風景